

アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身の kiku さんが綴るふるさとエッセイ

—あいなん音故地新—

「諦めも肝心。」

諦めるのは格好悪い、諦めんことこそ美学! と思って生きてきたあたし。国家試験直後に“諦めは肝心”やと思い知らされた。

“鍼灸師”つていうのは“はり師”と“きゅう師”、両方の資格を持った人のことで、国試の点数によってはどちらか片方だけになることもあり得る。試験が終わって自己採点したら、きゅう師は合格ライン。はり師に関してはどっちに転ぶかわからん状態やった。後悔と反省しかなかった。もっとやっていたら、まだまだやれることがあったはずや、って。こんなに悔いたのは生まれて初めてやった。自分が情けなかつたし、応援してくれた家族や友人への申し訳なさで涙が出た。けどもう「あとの祭り」あたしは、はり師を「諦めた」一年間は“きゅう師”としてやっていくぞ、って。その日から灸法の本を読み漁った。それしかなかった。その時の集中力というか、吸収力は凄まじかつた。諦めることができたから得た力やつたと思う。

過去は変えられん。どんなに悔やんでも反省しても。どうにもならんことに心を砕くより、変えていける未来に力を使いたい。無事に鍼灸師になれたけど、あの日の悔しさをあたしは忘れん。あたしに必要な時間やつたんやと思う。

(テノヒラ kiku)

【はりきゅう*小菊堂】7月はお休み。8月は10日・17～25日です。
詳しくはホームページ (<http://www.kogikudo.com/>) をご覧ください。

あいなん物産探訪 その⑭

「甘夏(未熟果実)」

J A えひめ南 南宇和選果場
営農指導員 大森 ^{たけひろ} 健弘さん



ので労力分散ができ、栽培が難しくなってきた高齢の方などが半分を未熟果実に切り替えるというやり方も可能ではないか



愛媛CATVの動画はこちらから

と大森さんは期待を込める。

御荘菊川・銭坪の農地で甘夏の栽培が行われている。J A えひめ南では、高齢化により管理が難しくなった一般の農地を借り上げ、平成24年から甘夏栽培を開始。果皮がまだ青い状態の3cm～5cmほどの未熟果実を7月頃に収穫し、漢方薬メーカーの(株)ツムラに出荷している。「乾燥させて枳実にして、漢方薬に用いられているようだ」と説明するのはJ A えひめ南の大森 ^{たけひろ} 健弘さん。

現在のJ A の栽培面積は約6反で、生産量は2トンほど。町内ではJ A の他に4戸が栽培に取り組んでいる。「通常の甘夏栽培と収穫時期をずらせる



▲果実は乾燥させて枳実(写真左側)にして用いられる